

岩見沢市立中央小学校

1 学習活動の概要

本校では、第6学年の総合的な学習の時間において、日本遺産「炭鉄港」を学習教材として取り上げ、地域の歴史や産業に関する探究的な学習活動を行うなど、ふるさとに対する愛着や誇りを育む授業実践に取り組みました。

2 学習活動の様子

(1) 課題の設定

岩見沢市の発展と鉄道の関係や発展に貢献した人々などについて、外部講師による講演会を実施し、講演の内容を踏まえ、課題を設定しました。

(2) 情報の収集

岩見沢駅舎、JRレールセンター、「そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター」の専門家による説明を通して、課題解決に必要な情報を収集しました。

また、一般社団法人岩見沢青年会議所と連携し、小樽総合博物館、室蘭観光協会、鹿児島県「尚古集成館」と本校をオンラインでつなぐリモート学習会を行い、他地域の町の歴史や炭鉄港との関わりについて説明を聞いたり、質問したりすることにより、それぞれの町の歴史や発展の特徴について情報を収集しました。



【リモート学習会の様子】

(3) 整理・分析

収集した情報の整理・分析を行う中で、新たに生じた課題を解決するために、修学旅行の行程に小樽市での研修を位置付け、小樽総合博物館等の見学を通して、町の歴史と炭鉄港との関わりについて理解を深めました。

(4) まとめ・表現

学習の成果をまとめ、外部講師や他の学年に向けた発表会を行いました。また、発表内容を地域へ広く発信することができるよう、地域の方々に向けた発表機会の設定や学習の成果のWebページへの掲載などの工夫を行います。

3 Naviポイント

- 地域の人的・物的資源を活用したふるさと教育を充実させるために、学校と地域をつなぐ地域コーディネーターとの連携を図り、目指す子どもの姿や学習のねらいを共有した上で、学習活動に必要な外部人材や見学場所を確保することが大切です。
- ふるさとに対する愛着や誇りを育む教育活動を充実させるために、地域素材を有効活用するとともに、他の教科等との関連を図るなど、指導計画を工夫することが大切です。